《フランス》…王政復活

①[　　]の反動政治

- 議会を解散、極端な②[　　]選挙（全人口のわずか0.3%）
- 言論・出版の自由停止
- 革命で土地を没収された貴族にばく大な賠償金

③[　　]（④　　）

パリ市民、3日間の市街戦で国王軍破る!!

※ドラクロワ画『民衆を導く自由の女神』

指導者 ラ＝ファイエットら自由主義者

⑤[　　家　　]、国王即位

→フランス革命時代以来の自由主義貴族

★⑥[　　]独立（1830）…オランダから独立 宗教・産業・ことばの違いから

★⑦[　　]で反ロシアの暴動 →ショパン『革命』

影響

ルイ＝フィリップの政治（＝⑯[　　]）

※フランスで産業革命進展

- 大資本家（銀行家など大金持ち）を優遇
- 制限選挙（人口のわずか0.6%）

⇨市民・労働者の反発

⑰[　　]（⑱　　）

パリ市民、2日間の市街戦 →ルイ＝フィリップ亡命

⑲[　　]の成立（王政停止）（＝⑳[　　共和政]）

★社会主義者㉑[　　]ら入閣 ← 社会主義思想のひろまり

社会主義的政策実践…国立作業場（失業者を働かせ、仕事がなくても給料支払う）↔ ブルジョワの反感から

↓

四月選挙（1848.4）で社会主義者惨敗し追放される。国立作業場閉鎖

↓

★労働者、㉓[　　]おこす

政治的不安定のなか、大統領選挙実施

↓

㉓[　　]当選（得票75%!）

→ナポレオン＝ボナパルトのおい

↓

クーデターで政権握り、共和主義者追放

国民投票で

皇帝即位!（1852）

（＝㉔[　　]）

＝㉕[　　帝政]開始

★領土拡大政策とり、多くの戦争・外征を展開

《イギリス》自由主義的改革がすすむ!!

（政（宗教的差別の撤廃）

⑧[　　廃止]（1828）…1673制定（名誉革命前）非国教徒は公職に就けないとしていた。→廃止!!

→ただし、旧教徒への差別のこる

⑨[　　]（1829）

→アイルランド人・オコンネルらの努力で実現

イギリス国教徒・ピューリタン・カトリック平等に

（選挙権拡大）

⑩[　　]（1832）

産業革命 ↓ 都市への人口集中

→⑪[　　]の廃止

都市の産業資本家に選挙権（（改正前）全人口の3%→（改正後）4.5%に）

過疎がすすみ、人口が10人しかいなくなったのに国会議員を1人出さなくてはいけない村など。

★⑫[　　]（1836～48）もり上がる!

『⑬[　　]』（男＋普通選挙など全6カ条）かかげ、労働者が参政権要求!!

貧しい者にも選挙権を!!

（自由貿易確立）

⑭[　　廃止]（1846）← コブデン・ブライトら反穀物法同盟を結成し、運動展開

→1815制定、国内の地主を守るため輸入穀物に高い関税をかけていた。

⑮[　　廃止]（1849）

→1651クロムウェルが制定、イギリスの港にはイギリス船と定められた地域からの船しか出入りできない、としていた。

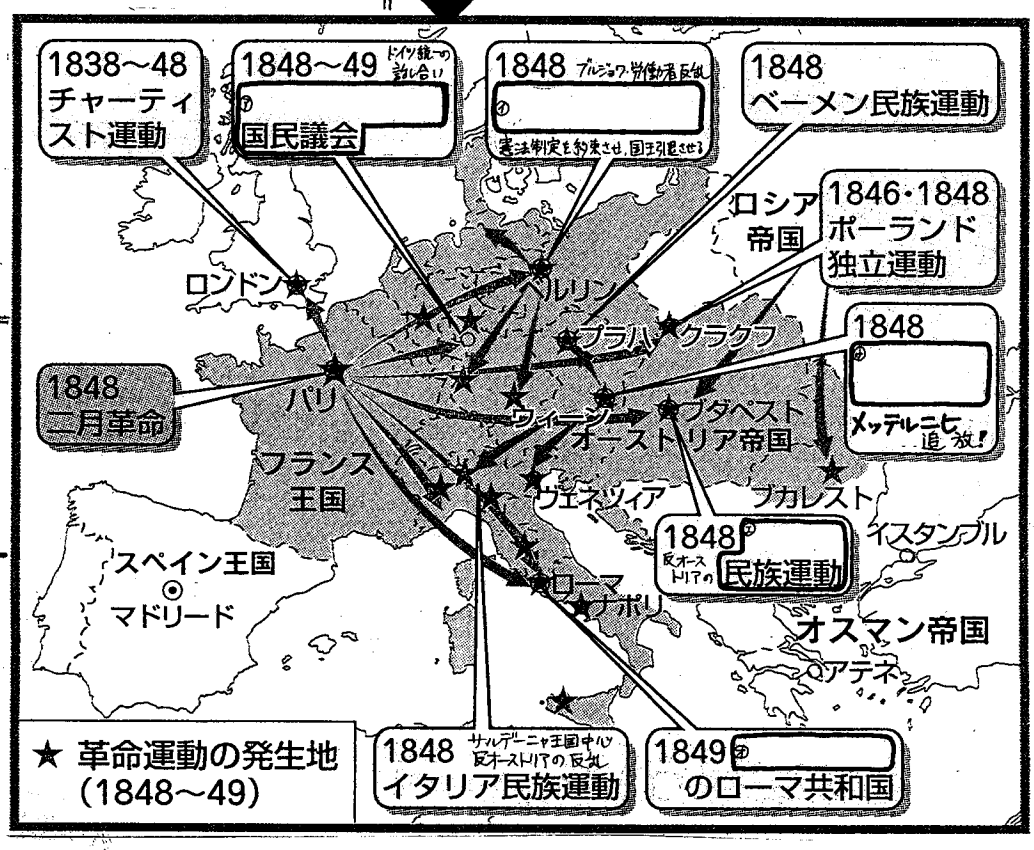
よーし自由に取引してもらうぞ!!

輸入業者

影響 → ウィーン体制崩壊!!

★自由主義・民族独立へのうごきを抑止できなくなる

★社会主義の発展…マルクス『共産党宣言』出版（1848）



《フランス》…王政復活

⑪シャルル10世の反動政治
- 議会を解散、極端な⑫制限選挙（全人口のわずか0.3%）
- 言論・出版の自由停止
- 革命で土地を没収された貴族にばく大な賠償金

⑬七月革命（⑭1830）
パリ市民，3日間の市街戦で国王軍破る!!
※ドラクロワ画『民衆を導く自由の女神』
指導者 ラファイエットら自由主義者

⑮オルレアン家ルイ＝フィリップ、国王即位
→フランス革命時代以来の自由主義貴族

★⑯ベルギー独立（1830）…オランダから独立
宗教・産業・ことばの違いから

★⑰ポーランドで反ロシアの暴動 →ショパン『革命』

影響

ルイ＝フィリップの政治（＝⑱七月王政）
※フランスで産業革命進展
- 大資本家（銀行家など大金持ち）を優遇
- 制限選挙（人口のわずか0.6%）

⇨市民・労働者の反発

⑲二月革命（⑳1848）
パリ市民，2日間の市街戦 →ルイ＝フィリップ亡命

㉑臨時政府の成立（王政停止）（＝㉒第二共和政）

★社会主義者㉓ルイ＝ブラン ら入閣
社会主義思想のひろまり

社会主義的政策実践…国立作業場（失業者を働かせ，仕事がなくても給料支払う）↔ブルジョワの反感から

四月選挙（1848.4）で社会主義者惨敗し追放される。国立作業場閉鎖

★労働者、㉔六月暴動おこす

政治的不安定のなか、大統領選挙実施

㉕ルイ＝ナポレオン（得票75%）当選
ナポレオン＝ボナパルトのおい

クーデターで政権握り、共和主義者追放

皇帝即位!!（1852）（国民投票で）

（＝㉖ナポレオン3世）
＝㉗第二帝政 開始

★領土拡大政策とり，多くの戦争・外征を展開

《イギリス》自由主義的改革がすすむ!!

（政(宗教的差別の撤廃）

⑧審査法廃止（1828）…1673制定（名誉革命前）非国教徒は公職に就けないとしていた。→廃止!!
→ただし，旧教徒への差別のこる

⑨カトリック教徒解放法（1829）
→アイルランド人・オコンネルらの努力で実現

イギリス国教徒・ピューリタン・カトリック 平等に

（選挙権拡大）

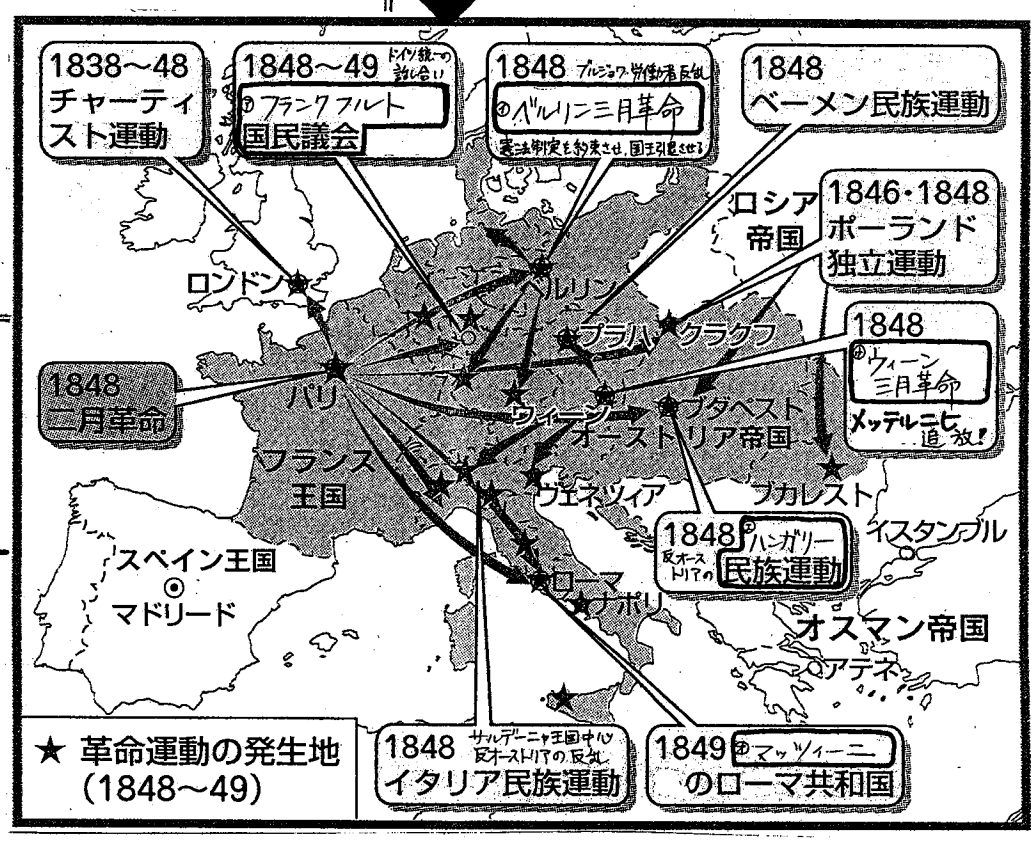
⑩第1回選挙法改正（1832）
- ⑪腐敗選挙区の廃止
  - 産業革命→都市への人口集中
  - 都市の産業資本家に選挙権
  - （改正前）全人口の3% → （改正後）4.5%に
- 過疎がすすみ，人口が10人しかいなくなったのに国会議員を1人出さなくてはいけない村など。

★⑫チャーティスト運動（1836~48）もり上がる!
『⑬人民憲章』（男子普通選挙など全6カ条）かかげ、
参労働者が参政権要求!!
貧しい者にも選挙権を!!

（自由貿易確立）

⑭穀物法廃止（1846）←コブデン・ブライトら反穀物法同盟を結成し，運動展開
→1815制定，国内の地主を守るため輸入穀物に高い関税をかけていた。

⑮航海法廃止（1849）
→1651クロムウェルが制定，イギリスの港にはイギリス船と定められた地域からの船しか出入りできない，としていた。

よーし取引して自由にそうなるぞ!!
輸入業者

影響→ウィーン体制崩壊!!
★自由主義・民族独立へのうごきを抑止できなくなる
★社会主義の発展…マルクス『共産党宣言』出版（1848）